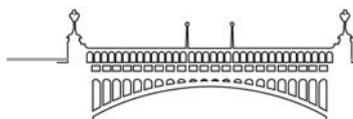
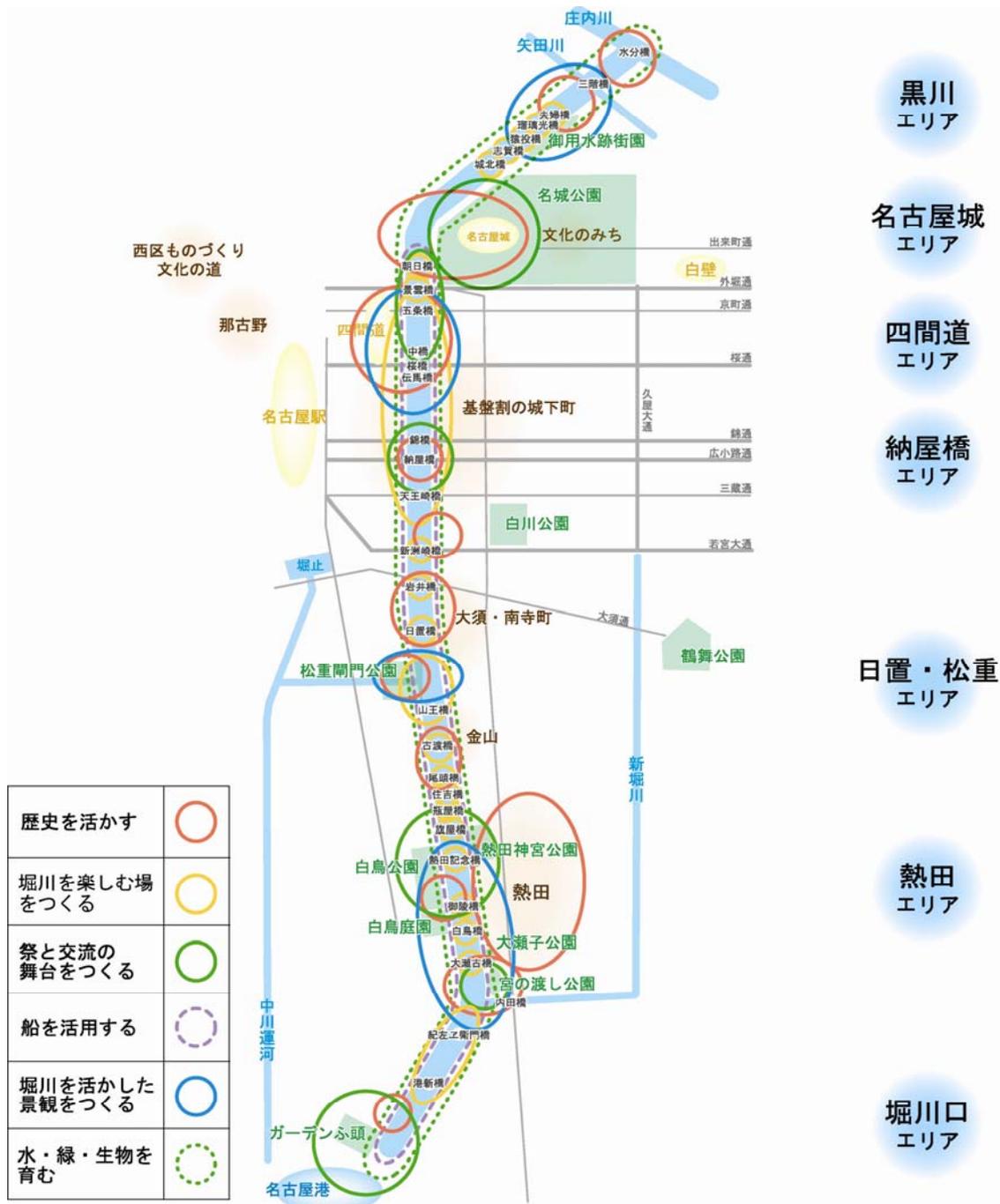


3. 拠点エリアの将来イメージ

堀川まちづくりの指針の実現には、事業展開の可能性の高いエリアにおいて、その特徴に応じた取り組みを進めることが効果的です。そこで、有効な資源をテーマごとに地図上に表し、資源が数多く存在し、事業展開の可能性が高い7つのエリアを「拠点エリア」としました。

また、それぞれの拠点エリアについて、これまでの経緯や現状、主な歴史・文化・観光資源、主なまちづくりの取り組み状況と、それぞれの特色を踏まえたまちづくりの方向性の将来イメージをまとめました。

※将来イメージのイラストは、特定の場所での実際の整備内容を示したのではなく、そのエリアでの実現が期待される取り組み・アイデアを1枚の絵にまとめたものです。



I 黒川エリア

特徴	<ul style="list-style-type: none">・豊かな自然が残る・黒川樋門など堀川の起点となる近代遺産が残る・友禅流しなど、川と関わる人々の営みが息づく
ビジョン	川・水を身近に感じふれあえる環境を伝える

① これまでの経緯や現状

- ・かつて名古屋城内堀へ水を取り入れるために造られた御用水路の跡地が街園として利用されており、豊かな自然が残る。
- ・堀川に生息する生き物をテーマとした環境学習や自然観察会、伝統工芸の再現である友禅流しなど川に入り水とふれあう機会が多い。
- ・名古屋市都市景観重要建築物等に指定されている黒川樋門など堀川の歴史が感じられる資源が残る。
- ・川沿いに、ソメイヨシノや八重桜、山桜などの桜並木があり、桜の名所となっている。
- ・志賀橋から田端橋まで、水面近くに遊歩道が整備されており、水辺散策を楽しむことができる。

② 主な歴史・文化・観光資源

天然プール かつては庄内用水、矢田川伏越、上飯田用水、志賀用水、黒川、御用水の合流点が天然プールとして子供達の遊び場であり、これを伝える石碑が設置されている。

黒川樋門 天然プールに貯めた水を黒川へ取り入れるための施設で、天然プールの埋め立てとともに取り壊されたが、昭和55年(1980年)に明治期の姿そのままに復元された。

八幡社 通称を稚児宮。末社の児子社は古来より虫封じの神として信仰が深い。代々尾張藩主も、幼少時に虫封じを授かったといわれる。

友禅流し 名古屋に息づく伝統工芸「名古屋友禅」の糊落としを再現。毎年、桜の季節に「堀川を清流に」の願いを込めて実施されている。

御用水跡 寛文3年(1663年)夏、庄内川の水を名古屋城内堀に引き入れる目的で開削された用水路で、辻村用水ともいった。その水路は、志賀・田幡村の南を経て御深井御庭の東北隅から城内に入り、さらに幅下、堀川に達していた。明治9年(1876年)この御用水に並行して黒川が切り開かれた。昭和47年(1972年)から埋め立てられ、同49年(1974年)に街園として整備された。

羊神社 本殿は慶長18年(1612年)に再建されたとある。その後、天保9年(1838年)尾張第十一代藩主、徳川斉温公の時代に改築された。昭和31年(1956年)、史蹟名勝箇所に指定されている。



多奈波太神社 あめのたなばたひめのみこと 主祭神は天之棚機姫命で、古書にも「例祭 7月7日の夕は燈を掲げて諸人参詣す」とあり、大正頃までは七夕の短冊飾りも盛大で、技芸上達の祈願で雑踏した。藩政時代は東照宮の管轄で一般人は柵外よりの参詣で例祭日だけ垣内参拝を許された。

自然観察会 近隣の小学生を対象とした堀川に生息する生物観察会が、市民団体により実施されている。



黒川友禅流し



天然プールの紹介板



御用水跡街園



羊神社



八幡社



安栄寺

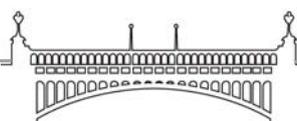


多奈波太神社

③ 主なまちづくりの取り組み

活動
 ・魅力ある黒川の再生
 ・黒川自然観察会
 ・黒川・桜のトンネルウォーク

堀川および
 堀川周辺の
 活動団体
 ・黒川ドリーム会
 ・御用水跡街園愛護会
 ・北区民まちづくり推進協議会
 ・ロマン黒川の会





④将来イメージ

- ・生物観察会など現在行われている活動を継続しつつ、周辺のまちとのつながりをつくる
- ・桜並木を守りつつ、より水に親しめる空間をつくる



II 名古屋城エリア

特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋を象徴する観光拠点・名古屋城を抱え、本丸御殿復元など、名古屋城の歴史を活かしたプロジェクトが進行する ・築城を支えた堀川開削からの歴史が残る ・市民の憩いの場である名城公園が隣接する
ビジョン	名古屋の象徴、名古屋城とそれを支えた堀川の歴史を伝える

① これまでの経緯や現状

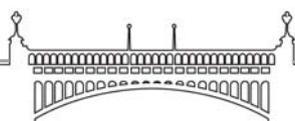
- ・名古屋を代表する観光地として多くの来訪者が訪れる名古屋城では、本丸御殿の復元が行われている。また、正門前には城下町を再現した観光施設の整備も検討されている。
- ・名古屋城南下御門枡形の北に外堀の水位を一定に保つため造られた辰之口水道大樋跡が残されているほか、朝日橋には「堀川堀留跡の碑」が設置されており、堀川開削からの歴史が残っている。
- ・名城公園が近接しており、面積 76.3 ヘクタールの敷地には豊かな自然に囲まれて愛知県体育館や名城公園野球場、蓮池、菖蒲池、名城プール等が立地している。
- ・名古屋城正門から 200 メートル程度に位置する朝日橋には、堀川を航行する船の船着き場が設置されている。
- ・名古屋市役所本庁舎や名古屋市市政資料館、愛知県庁本庁舎など、名古屋を代表する近代建築が立地する。

② 主な歴史・文化・観光資源

名古屋城 徳川家康の築城。慶長 15 年(1610 年)に縄張りを実施し、慶長 17 年(1612 年)に天守閣が完成した。その後約 250 年間、徳川御三家筆頭尾張公の居城として伝領され、明治 5 年(1872 年)に宮内省から名古屋市に下賜された。主要な建物は、戦災により焼失したが、昭和 34 年(1959 年)に近代工法により天守閣が再建された。表二之門(重要文化財)や東南隅櫓(重要文化財)、西南隅櫓(重要文化財)など貴重な伝統的建造物が残されている。毎年夏に名古屋城宵まつりがおこなわれる。

本丸御殿 近世城郭御殿の最高傑作と言われ国宝に指定されていた建物で、現在、国宝になっている京都二条城の二の丸御殿と並ぶ武家風書院造の双璧と言われていた。昭和 5 年(1930 年)に国宝に指定されたが、昭和 20 年(1945 年)5 月、空襲により天守閣とともに焼失した。江戸時代の文献のほか、多くの写真、実測図が残されており、現在復元工事が行われている。

瀬戸電堀川駅 かつて瀬戸で作られる陶器の輸送と陶器作りに必要な資材の運搬を主目的として瀬戸電(現 名鉄瀬戸線)が開通。堀川の水運を利用するため、名古屋城の外堀を通過して明治 44 年(1911 年)に堀川駅が開設された。昭和 51 年(1976 年)廃線。



辰之口水道大樋 かつて名古屋城のお堀の水位調整のため、余剰水を堀川に流していた樋管。現在はお堀に残る取水口が確認できるのみであり、詳細は不明である。

名城公園 名古屋城を中心に二之丸、三之丸、北園までにあるいくつかの公園の総称で、一般的にはお城の北の北園を指す。公園内には、せせらぎの流れる広々とした芝生広場を中心に御深井池、四季の園、名城公園フラワープラザなどがある。

名古屋市役所 本庁舎、東庁舎、西庁舎からなる。本庁舎（昭和8年(1933年)完成）は昭和天皇即位の記念事業であり、平林金吾の設計を基にした頂部に城郭風の屋根を乗せた帝冠様式の意匠が特徴的である。登録有形文化財になっている。

愛知県庁 本庁舎、西庁舎、自治センター、県議会議事堂からなる。本庁舎は、昭和13年(1938年)3月完成。西村好時と渡辺仁の基本設計による、頂部に城郭風の屋根を乗せた帝冠様式の意匠が特徴的である。



船着き場（朝日橋）



名古屋城のお堀と堀川（尾張名所図会）



名古屋城



辰之口水道大樋



名古屋市庁舎



堀留跡の碑

③ 主なまちづくりの取り組み

- 活動
- ・名古屋城宵まつり
 - ・名古屋城文化フォーラム

- 堀川および堀川周辺の活動団体
- ・名古屋かわを考える会
 - ・名古屋城外堀ヒメポタルを受け継ぐ者たち
 - ・清須越400年事業ネットワーク





④将来イメージ

- ・名古屋城や名城公園と連携させたにぎわいづくりを行う
- ・名古屋城から沿川観光地への舟運の利用促進を図る



Ⅲ 四間道エリア

特 徴	<ul style="list-style-type: none"> ・清須越以来の商人町「四間道」の町並みが残る ・円頓寺商店街ではまちの活性化のための取り組みが進んでいる ・屋根神様や美濃街道などの資源が多く存在する ・船着き場の設置など堀川とのかかわりをもつ施設の設置が望まれている
ビジョン	四間道の町並みに繋がる堀川舟運と荷揚場など、往時の堀川の姿を再生する

① これまでの経緯や現状

- ・堀川端、清須越以来の商人町・四間道は、戦災の被害が少なく戦災復興区画整理の区域外であったことから、土蔵群と町家が残り、名古屋市の「町並み保存地区」にも指定されている。
- ・四間道沿いに神社、町家、長屋等の歴史的建造物が多く、屋根神様が残る建物も見られる。
- ・町並み保存地区にある歴史的建造物の保存・活用が課題となっており、歴史的建造物を活用した店舗が増え始めている。
- ・町並み保存地区以外でも歴史的建造物が残されているが、近年減少しつつあり、駐車場や高層マンションが増加している。
- ・市民や歴史愛好家による勉強会、案内板の設置などが取り組まれている。
- ・円頓寺・四間道界隈でのまちづくり活動が進んでいる。
- ・かつて水運を利用していた商家や材木店等が減り、まちと堀川との関連がみられなくなっている。

② 主な歴史・文化・観光資源

五 条 橋 堀川にかかる橋で堀川七橋の一つ。もとは清須にあったものが清須越と共に名古屋に移された。名古屋市都市景観重要建築物等に指定されている。

円 頓 寺 普敬院日言上人が開山した日蓮宗の寺院で、創建当初は名古屋城天守閣の余材を拝領して建立された。本堂脇には藩祖義直の側室が寄進した鬼子母神像が安置されている。

伊 藤 家 「清須越」の商家。川岸に蔵を設け、道を隔てて主屋・土蔵が並んでいる。元禄時代より段階的に建築され、主屋・土蔵 4 棟が県指定文化財に指定されている。

浅 間 神 社 応永 5 年(1398 年)6 月に三谷源太夫により富士塚町に勤請され、慶長 15 年(1610 年)名古屋城築城工事のため現在地に移ったとされる。

屋 根 神 様 屋根の上にある小さな祠。通常は火伏の秋葉神社や厄除けの津島神社のほか熱田神宮から迎えてきたお札が祀られている。

美 濃 街 道 江戸時代に東海道・宮宿と中山道・垂井宿を結んだ脇街道。本町通りを伝馬町筋で西折れし、伝馬橋にて堀川を渡る。大船町通りを北上し五条橋西端を通り、枇杷島、清須、起を経て垂井へ至る。



慶栄寺 永正8年(1504年)、善正上人が春日井郡河原村に創建した寺院。大火により全焼した後、現在地に再建された。宝物として聖徳太子木像、阿弥陀如来像などがある。

真宗高田派 真宗高田派の寺院。創建当初は臨江山信行院と呼称したが、宝暦4年(1754年)名古屋別院に専修寺と改称、明暦2年(1656年)に現在地へ移り、元文4年(1739年)高田本坊と改称した。



四間道(尾張名所図会)



現在の四間道の町並み



五条橋



伊藤家



浅間神社



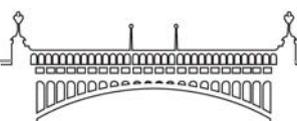
屋根神様

③ 主なまちづくりの取り組み

活動 ・四間道町並み保存地区〈昭和61年(1986年)指定〉
・円頓寺七夕まつり

堀川および
堀川周辺の
活動団体

- ・那古野下町衆
- ・ナゴノダナバンク
- ・那古野一丁目町づくり研究会
- ・美濃路まちづくり推進協議会
- ・商店街(円頓寺商店街振興組合、円頓寺本町商店街振興組合、西円頓寺発展会)
- ・縁側妄想会議編集室
- ・屋根神文化フォーラム
- ・「ものづくり文化の道」推進協議会





④将来イメージ

- ・ 周辺のまちづくり活動と堀川とのつながりをつくる
- ・ 歴史資産を活かしたまちづくり活動を推進する



IV 納屋橋エリア

特 徴	<ul style="list-style-type: none"> ・近代の目抜き通り広小路が通り、近代名古屋の歴史が残る ・河川敷地を活用したオープンカフェやイベントが実施されにぎわい拠点となっている
ビジョン	近代の目抜き通り広小路のにぎわいと近代名古屋の息吹を伝える

① これまでの経緯や現状

- ・堀川開削とともに架けられた「堀川七橋」の一つである納屋橋があり、開削を行ったとされる福島正則にちなみ福島家の家紋が施されている。
- ・納屋橋で広小路通と堀川が交差しており、昭和46年(1971年)までは橋上を市電が行き交うなど近代名古屋のメインストリートだった。
- ・旧城下町に近接しており、錦橋から洲崎橋までの地区には泥江縣神社や洲崎神社、八角堂などの神社仏閣や御船手役所址など史跡が多く残る。
- ・マイタウンマイリバー整備事業により川沿いに遊歩道が整備され、堀川納屋橋地区河川敷地活用事業として、オープンカフェやイベント空間として一定条件のもと使用することが可能となり、地域のにぎわい創出に役立てられている。
- ・堀川ギャラリーの入る旧加藤商会ビルや民間活力の導入による市有地の有効活用として整備したHOTORiS NAGOYA 納屋橋(ほとりす)などの施設がある。
- ・納屋橋の南には船着き場が整備されており、イベント時等には船が運行している。
- ・御園座が近接しており、船上から「興行地到着」の挨拶をするセレモニー「船乗り込み」が平成13年(2001年)と18年(2006年)に堀川で行われた。

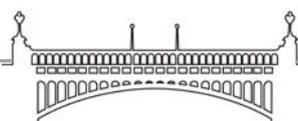
② 主な歴史・文化・観光資源

旧加藤商会ビル 名古屋に本拠を置き、主に外米などの輸入貿易を行っていた加藤商会の本社として堀川に面する納屋橋のたもとに建築された。現在の鉄筋コンクリート造のビルは昭和6年(1931年)に建て直されたもの。テラコッタや外壁のレンガ調タイルなどの近代建築の特徴を残しており、平成13年(2001年)に国の登録文化財となった。現在はレストランや、市民ギャラリーとして利用されている。

廣井官倉 尾張藩の藩倉。当初3棟の蔵があったことから領民が「三蔵」と呼ぶようになり三蔵通にその名を残す。幕末期には28棟の蔵があった。

御船手役所跡 かつて尾張藩の御船手役所が置かれていたところで尾張藩海軍の根拠地であった。弘化4年(1847年)の記録によれば、代々千賀氏が船奉行として藩の艦船を掌握し、尾張、三河、伊勢、志摩に到る海岸防衛に当たっていた。

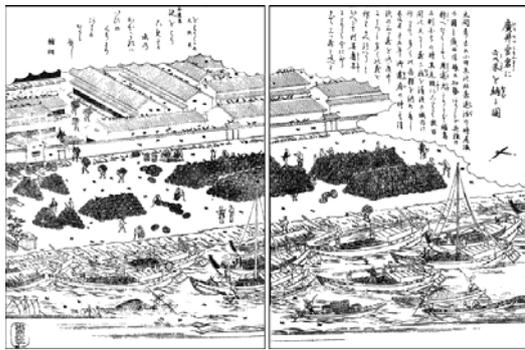
洲崎神社 社伝では貞観年間(860年頃)の創建で、広井天王、牛頭(ごず)天王社、天王崎神社などとも呼ばれた。古くはムク、エノキ、カシ、マツなどが密生した広大な境内だったが、堀川の開削により狭くなった。



泥江縣神社 清和天皇の貞観元年(859年)に筑前国宇佐の八幡宮の分霊として勧請したとされる。慶長の見地町割や維新の際などに社域を減じられた。この神様は耳が遠いので、社殿の裏手にまわって、小石かこぶして殿舎の腰板をたたいたのち、正面に戻って参拝せねば願いが聞かれぬ、との話も伝わる。

御園座 明治27年(1895年)に創立。翌年6月19日に、市川左團次一座の柿(こけら)落として開場した。毎年10月に吉例顔見世が行われる。現在、建て替え計画が進行中。

法蔵寺 初代尾張藩主徳川義直によって名古屋城二之丸御庭に学問所として建設された聖堂が(八角堂)法蔵寺の本堂として移築されており、以来、八角堂と呼ばれている。堂内には本尊の阿弥陀如来像が安置されている。



廣井官倉 (尾張名所図会)



現在の納屋橋



旧加藤商会ビル



泥江縣神社



洲崎神社



船乗り込み (平成18年)
(朝日新聞記事より)

③主なまちづくりの取り組み

- 活動
- ・なやばし夜イチ
 - ・堀川ウォーターマジックフェスティバル
 - ・堀川フラワーフェスティバル
 - ・堀川納屋橋地区河川敷地活用事業
 - ・ほりかわ楽市楽座
 - ・堀川エコロボットコンスト

- 堀川および堀川周辺の活動団体
- ・広小路セントラルエリア活性化協議会
 - ・鯨城・堀川と生活を考える会
 - ・堀川文化を伝える会
 - ・NPO 法人ゴンドラと堀川水辺を守る会





④将来イメージ

- ・多くの市民や観光客が訪れるよう、魅力的なイベントが開催される場とする
- ・沿川建物が川面に顔を向け、市民や観光客が堀川を楽しむ場をつくる



V 日置・松重エリア

特 徴	<ul style="list-style-type: none"> ・堀川花盛に描かれた船遊びと桜の名所 ・松重閘門など、産業都市名古屋の発展期を支えた遺産が残る
ビジョン	舟遊び、桜の名所など「堀川花盛」に描かれた庶民文化とにぎわいの歴史を伝える

① これまでの経緯や現状

- ・堀川開削当時に架けられた堀川七橋のうち日置橋、古渡橋、尾頭橋の3橋や、我が国に現存する鋼製アーチ橋として2番目に古い岩井橋など特徴ある橋梁がある。
- ・堀川と中川運河の水位差を調節し、船舶の航行を可能としていた松重閘門が、閘門としての機能は失われているがモニュメントとして残されている。
- ・松重閘門でつながる中川運河では、中川運河再生計画による再生が進められており、堀川との連携が課題の一つとして挙げられている。
- ・日置橋周辺は、かつては「堀川花盛」に描かれた花見の名所として茶屋などの建ち並ぶにぎわいの拠点であったことから、桜の名所の再生を目指して日置橋付近の護岸を整備し、桜を植樹する事業が進められている。
- ・日置橋のたもとには、「堀川日置橋より兩岸の桜花を望む図（尾張名所図会）」にも描かれる江戸時代から続く石屋が残る。
- ・尾頭橋はかつての佐屋街道として利用された。
- ・数が減ってはいるが、現在でも川沿いに多くの材木店があり、堀川から丸太を陸揚げするためのクレーンなどが見られる。

② 主な歴史・文化・観光資源

松 重 閘 門 中川運河と堀川を連絡する中川運河支線通船路にあり、昭和初期の中川運河の開通とともに築造された西洋風の閘門。両者にわたって航行する船は、水位が異なっているため、ここで水位調整を行い航行を続けた。陸上輸送の比重が大きくなり、昭和43年(1968年)に閉鎖されたが、名古屋の発展を記念する遺構として保存され、周囲は小公園になっている。市の指定文化財。

岩 井 橋 大正12年(1923年)9月竣工。我が国に現存する鋼製アーチ橋としては大阪の本町橋に次いで2番目に古く、唯一、戦前からの飾り板が残る。意匠は武田五一によるもの。

しおがほ 鹽 竈 神 社 付近に松平康久入道無三という武士がいたことから無三殿と呼ばれている。昔百姓が無三殿さまの前で倒れていた河童を介抱したところ、お礼に痔病を治してくれたという伝説から、お参りすると痔病が治ると言われている。また安産にもご利益があると言われている。



二葉亭四迷幼年時代住居跡 小説家として著名な二葉亭四迷は、尾張藩士の長谷川吉数の子として東京市ヶ谷で生まれ、明治元年(1868年)5歳の時に母に連れられ名古屋に移り、明治5年(1872年)までこの地で過ごした。

汗かき地藏 観永寺境内にある。昔、堀川の中に落ちている地藏を発見した百姓が、その地藏を拾い上げ観永寺に持っていき祀ってくれるようお願いしたところ、当時の住職諦善尼が快く引き受けた。その年、日照りと疫病が流行り、村人がその地藏さまに一心に祈ったところ、地藏の額から汗が流れ、空から雨が降り村が救われたという伝説がある。

ナゴヤ球場 中川区露橋二丁目にある野球場。平成8年(1996年)まで中日ドラゴンズの本拠地球場で、ナゴヤドーム完成に伴い、現在は中日ドラゴンズ二軍の本拠地になっている。



堀川日置橋より兩岸の桜花を望む図（尾張名所図会）



岩井橋



鹽竈(しおがま)神社



松重閘門

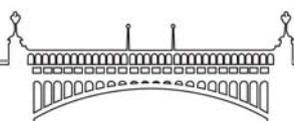


荷揚げ用クレーン

③ 主なまちづくりの取り組み

- 活 動
- ・松重閘門ライトアップ
 - ・桜の植樹事業
 - ・堀川のゴミ取り大作戦

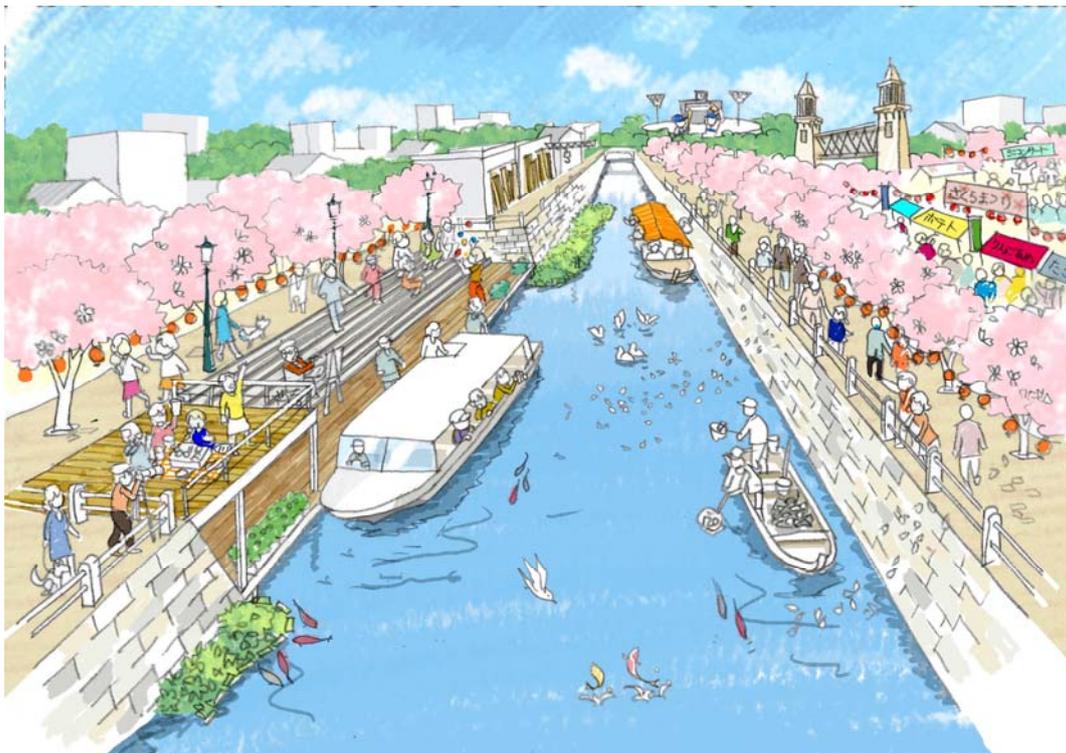
堀川および
堀川周辺の
活動団体





④将来イメージ

- ・ 松重開門や日置橋の桜並木など歴史を活かした堀川まちづくりの機運を高める



VI 熱田エリア

特 徴	<ul style="list-style-type: none"> ・熱田神宮や白鳥古墳に代表される悠久の歴史が残る ・宮の宿、熱田湊など尾張名古屋・東海道の歴史が残る ・交流拠点となる国際会議場が立地する
ビジョン	堀川誕生の起点、東海道宮の宿、熱田湊の歴史を伝える

① これまでの経緯や現状

- ・熱田神宮や断夫山古墳、白鳥古墳などが点在し、悠久の歴史を物語る。
- ・東海道の宮の渡し跡が復元され、かつて熱田神宮の門前町、湊町として栄え、東海道最大の宿場であった宮の宿の歴史を感じる歴史的建造物等が残っている。
- ・新堀川との合流点にあたり、開けた水面を望むことができる。
- ・護岸改修がほぼ完了しており、川沿いにはプロムナード（遊歩道）が整備されている。
- ・白鳥公園、宮の渡し公園には、船着き場が設置されており、イベント時等には名古屋城方面、名古屋港方面への船が運行している。
- ・平成元年(1989年)に、市制100周年記念事業「世界デザイン博覧会」のテーマ館として建設された名古屋国際会議場が隣接しており、約3,000名収容のセンチュリーホールなどがある。

② 主な歴史・文化・観光資源

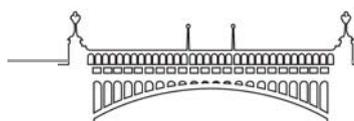
熱 田 神 宮 三種の神器の一つである草薙剣を神体とし、天照大神、素戔嗚尊、日本武尊、あまてらすおおみかみ すさのおのみこと やまとたけるのみこと宮貴媛命、みやきひめのみこと建稲種命たけいなねのみことを祀っている。平成25年(2013年)には創祀1900年の記念行事が予定されている。

断 夫 山 古 墳 東海地方最大の前円後円墳で6世紀初頭に築造されたと考えられている。熱田神宮公園の敷地も含めてかつては熱田神宮の管理下にあったが、第二次大戦後に名古屋市の戦災復興事業に伴い仮換地となり、昭和55年(1980年)に愛知県所有となって現在に至る。昭和62年(1987年)7月9日に国の史跡に指定された。

白 鳥 古 墳 6世紀初め頃に造られたもので、尾張氏の墓であるという説が有力となっている。全長74メートルの前円後円墳だが、前方部全体と後円部の東部分が削られ原型は留めていない。

太 夫 堀
(白鳥貯木場跡) 名古屋城築城時に貯木場として掘られた。その後、木曾地域が尾張藩領となった時に白鳥材木役所がおかれた。寛永年間(1624～43年)に堀川左岸の法持寺西方に木曾材を揚げて売る材木場が設けられ、これに伴い堀川沿い(中区)に多くの材木屋が集中した。

宮 の 渡 し 東海道五十三次で知られる宮の宿から桑名宿(三重県桑名市)までの海上の渡しで、かつての官道。この渡しの宮の宿側、または、桑名宿側の渡船場のみを指して「七里の渡し」と呼ぶことも多い。



熱 田 荘 料亭「魚半」として建てられた。明治 29 年(1896 年)に竣工。木造二階建て、切妻造り、棧瓦葺平入りの建物で、戦時中は三菱重工業の社員寮として利用されていたが、現在は養護老人ホームとして使用されている。

丹 羽 家 木造 2 階建て、切妻造棧瓦葺。屋号を「伊勢久」と称し、幕末期には脇本陣格の旅籠を営み西国各藩の提灯箱などが残されている。市の指定文化財。

名古屋国際会議場 世界デザイン博覧会で建設された白鳥センチュリープラザを再利用して平成 2 年(1990 年)に設置された。客席数 3,000 席のセンチュリーホールのほかイベントホール、国際会議場、レストランを備える。平成 22 年(2010 年)には第 10 回生物多様性条約締約国会議(COP10)が開催された。



丹羽家



名古屋国際会議場



宮の渡し公園（常夜灯）



太夫堀（白鳥貯木場跡）



白鳥古墳



熱田神宮



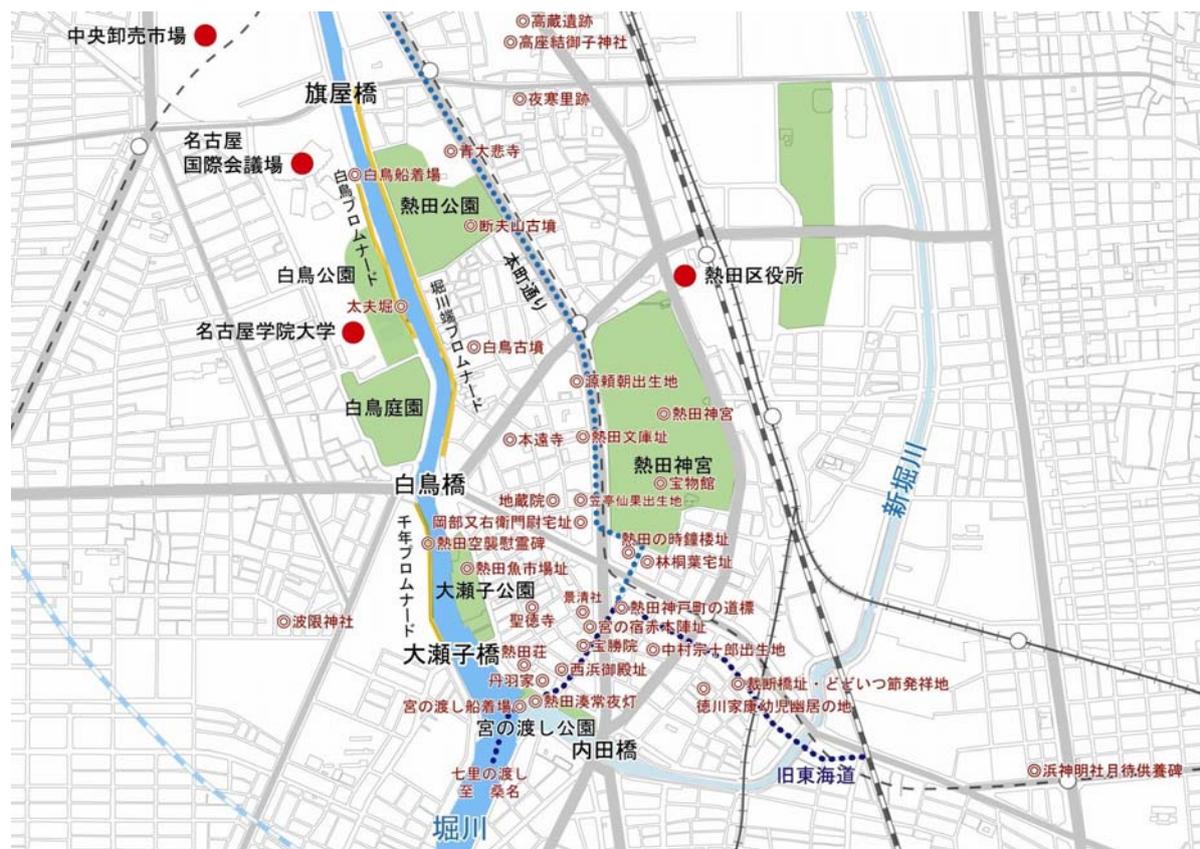
宮の渡し公園（時の鐘）

③主なまちづくりの取り組み

活 動 ・堀川まつり
・熱田区・名古屋学院大学との協働まちづくり

堀川および
堀川周辺の
活動団体 ・NPO 法人堀川まちネット
・熱田区まちづくり協議会
・堀川にぎわいづくり専門委員会
・あったか人まちづくり専門委員会





④ 将来イメージ

- ・ 熱田湊や宮の宿などの歴史資源を活かした堀川まちづくりの機運を高める
- ・ 国際会議場や熱田神宮などの集客施設との連携を深める



Ⅶ 堀川口エリア

特 徴

- ・近代名古屋の海の玄関と産業発展の礎となった港の歴史が残る
- ・ガーデンふ頭等の交流空間に近接する

ビジョン

近代名古屋の海の玄関と産業発展の礎となった港の歴史を伝える

① これまでの経緯や現状

- ・名古屋港ガーデンふ頭は「親しまれる港づくり」の中心拠点のひとつとして再開発等が進められ、にぎわいづくりが図られている。
- ・ガーデンふ頭には船着き場があり、堀川へとつながる船が運行されている。
- ・堀川の河口にあたる名古屋港築地ふ頭にはかつて名古屋港線の貨物駅「堀川口駅」があり、周囲の倉庫や工場からの貨物輸送を行っていた。堀川口駅は昭和29年(1954年)に移転。

② 主な歴史・文化・観光資源

名古屋港 跳上橋 堀川河口部の西側に位置し、旧1・2号地間運河に架設された鉄道用の跳上橋。可動橋の第一人者である山本卯太郎の設計。昭和62年(1987年)から可動部の桁を跳ね上げた状態で保存されている。平成11年(1999年)2月17日、国の登録有形文化財に登録される。さらに、平成21年(2009年)2月6日、経済産業省が認定する近代化産業遺産となる。

ガーデンふ頭 名古屋港水族館には世界最大級のプールがあり、イルカなどのパフォーマンスが楽しめる。また、ポートビルには名古屋海洋博物館や展望室(地上53メートル)が設けられており、その他、シートレインランドやJETTYなどの娯楽・商業施設もあるアミューズメントゾーンである。平成元年(1989年)の世界デザイン博覧会や平成17年(2005年)の愛・地球博ではイベント会場となった。毎年、海の日やクリスマスにもイベントが行われ、花火が打ち上げられている。



跳上橋



名古屋港ガーデンふ頭

③ 主なまちづくりの取り組み

活 動 港まちづくり協議会





④将来イメージ

- ・ 都心と連携した観光拠点となるよう、堀川へつながる舟運を活かす
- ・ ガーデンふ頭のにぎわいとつながりをつくる

